

てるびっと

No. 29

2023 / 3



海外研修KYOのあけぼの会

表題「てるびっと」はインドネシア語(京都府友好国)で「あけぼの」の意味です。
京都府の花「しだれざくら」木「北山杉」鳥「オオミズナギドリ」をモチーフにしています。

はじめに



ご挨拶



海外研修 KYO のあけぼの会
会長 田中 田鶴子

皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

海外研修 KYO のあけぼの会の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

2022 年の自主研修は「環境との共存・奄美の女性の活躍」をテーマに、世界遺産・奄美大島を訪ねました。奄美大島は「東洋のガラパゴス」とも呼ばれ、固有種の生物が多く生息しています。

今回の研修では、金作原原生林ネイチャーツアーで、神秘的な自然に圧倒されるとともに、自然や絶滅危惧種をはじめとする希少種を守る現地の方々の取り組みを学びました。また、奄美パークや大島紬村、奄美大島酒造では、自然豊かな奄美大島だからこそ生まれた独自の文化や芸術にも触れ、特産品も見学しました。

奄美大島商工会議所女性会の方々との懇談会では、伝統的な文化や産業をつなげていくことの苦勞や工夫について話を伺い、環境の変化や人口減少といった問題に直面しつつも様々な努力をされ、自然との共存を実践されている方々の姿をみることができました。

京都府においても、持続可能な社会を築くために自然や生態系を守り、環境に優しいライフスタイルを確立させることで、次世代にバトンをつなげていきたいと強く思う次第です。

今回の成果を、本紙に掲載しておりますので、ご一読ください。

当会は 1989 年以来、リーダーとしての資質向上や、女性関係団体のネットワーク作り、さらに国際交流の促進をめざして活動を続けてまいりました。その間、社会環境も大きく変化し、今では組織や社会の発展には女性の活躍が不可欠な時代になりました。今後とも京都府が推進される共生社会の実現の一助を担うべく、歩を進めてまいりますので、会員の皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

海外研修 KYO のあけぼの会 2022 年度総会・研修会次第

日時：令和4年4月21日(木)11:00~13:40 場所：京都ホテルオークラ 3階「翡翠の間」

総会

1. 開会
2. 田中田鶴子会長挨拶
3. 来賓紹介 京都府男女共同参画副部長 木村真子様
4. 来賓祝辞
5. 議長提出
6. 議事
 - 1号議案 2021年度事業及び決算報告について
監査報告
 - 2号議案 2022年度事業計画及び予算(案)
 - 3号議案 2022・2023年度役員選任(案)
7. 閉会





ご挨拶



京都府知事
西脇 隆俊 氏

「海外研修KYOのあけぼの会」の皆様におかれましては、日頃から京都府政の推進につきまして、御理解と御協力を賜っておりますことに、心よりお礼申し上げます。

今年度貴会におかれましては、世界自然遺産に登録された奄美大島を訪問され、生物多様性や生態系の保全について学習されるとともに、奄美大島の商工会議所女性会と、現地の女性活躍の現状について意見交換をされました。この研修の成果をKYOのあけぼのフェスティバルのワークショップにおいて報告され、多くの参加者と共有いただけたところです。

このような貴会の取組が、地域における女性活躍並びに男女共同参画を先頭に立て牽引いただいているものと、改めて認識させていただいたところです。

京都府では、コロナ等による社会経済情勢の変化を踏まえ、1年前倒しで改定した「京都府総合計画」を府政運営の羅針盤として、人と地域の絆を大切にする「あたたかい京都づくり」を進めてまいります。その中で、性別にかかわらず誰もが自らの意思によって社会参画できる社会を目指し、多様化する生き方や各ライフステージに応じたきめ細かな支援を実施してまいりますので、皆様方のお力添えをお願い申し上げます。

結びにあたり、地域社会活動のリーダーとしての資質向上をめざし、女性関係団体のネットワークづくりや国際交流の推進を理念として活動しておられる「海外研修KYOのあけぼの会」様のますますの御発展と、会員の皆様の御健勝を心より祈念申し上げます。

研修会

『奄美の自然と世界遺産』

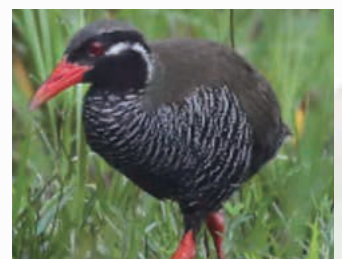
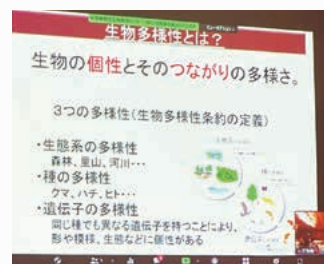
—オンラインで奄美大島からのご講演—

講師：奄美大島国立公園管理事務所
国立公園管理官 田口 知宏 様

まだコロナ禍で落ち着かない中、今期の研修旅行先である奄美大島在住の田口知宏様に奄美～京都のオンラインのご講演を頂きました。

2021年7月26日『極めて希少な生物や生態系を有している』ということで世界自然遺産に登録された奄美大島。動物をこよなく愛されている田口様から現在の奄美大島の実情と希少動物の説明を伺いました。そして守っていくためには島での天敵や車などの事故だけでなく、近年は密猟などによる危険が迫っているというお話でした。

私たち観光する者は楽しませてもらうだけでなく、自然と希少動植物を守っていく知識・意識を持たないといけないのだと再確認いたしました。



2022年度 自主研修「環境との共存・奄美の女性の活躍」

2022 年 10月24日~26日

奄美パーク

石村芳子・小野幸親・岡崎紀枝・山科昌子

奄美の郷

前日まで大雨だったようですが、晴天に恵まれ奄美大島の素晴らしい陽光と空気に私達は癒されました。

「奄美の郷」建物前 ▶



2001年9月に旧奄美空港跡地に開園、海岸のそばの美しい自然の中に、空港の名残で展望台が残っています。

◀ 光・風・夢あふれる未来へのゲートウェイとして残っている

「奄美の郷」

・海の道 ・シマの道 ・森の道と名付けられた自然を写した庭には、奄美諸島固有種の植物が光と海風と豊かな土壌の中で大らかに育ちこの土地でしか感じられない風を感じます。

建物の内部は、明るい陽光に溢れ 奄美の自然、歴史、文化を映像や展示などで楽しく学び、イベント広場では太鼓「チジン」、三味線「三線（さんしん）」の演奏などが地元のボランティアの方々で行われ、大人から子供まで楽しく学べる仕組みがなされ「憩いの場、交流の場」となっています

観光客はもとより地元の人たち、そして次代を担う子供たちに奄美諸島地域の歴史を包括した独自の風習や民族、文化などが解りやすく展示されています。奄美の美しい自然や多様な文化、歴史をビジュアルに紹介し、人々の交流の場に成っているようです。展示ホールは奄美の集落をモデル化し、海の道、テーマウォール、シマの道、森の道、の4つのゾーンごとに、実物大の模型や写真、映像などで奄美を体感できます。



・奄美パーク園及び・田中一村記念美術館の宮崎緑館長は「手つかずの自然と素晴らしい人情と独特の地域文化と、奄美には失われつつある人間としての大切なものがまだ確かに息づいています。心の洗濯、そして自分探しの場としてもきっと何かが見つかるでしょう」と紹介しています。

田中一村記念美術館



画像提供：奄美パーク・田中一村記念美術館

奄美の自然や文化を紹介する奄美パーク内に2001年、田中一村記念美術館が開設されました。私たちは南国特有の水に浮かぶ高床式住居を模した三棟からなる美術館で、彼の絵画を鑑賞しました。

田中一村は1908年栃木県で彫刻家の父のもとに生まれ、幼少の頃から父の指導で南画を描き天性の才能を発揮していました。難関の東京美術学校(現東京藝術大学)に入学し、同級生には東山魁夷や橋本明治等がいましたが、僅か2ヶ月で退学してその後は特別な師を持たず、独自の意思と発想で絵を描き続けました。後には帝展等の公募展に出品します

が落選続きであり、1958年50歳になった一村は傷心の中、画壇から離れ奄美大島に移住し、大島紬の工場で染色工として働き生計を立て、ひたすら自身の為に絵を描き続けました。



画像提供：奄美パーク・田中一村記念美術館

▲ 展示室には移住前の作品も展示されている



▲ 奄美の植物を描いた絵

そして中央画壇に認められる事も無く、希望していた個展を開催する事が叶わないままに、体調の悪化により奄美の地で69歳の生涯を閉じました。

亡くなって7年後の1984年にNHKの「日曜美術館」の特集番組で一村の生涯と作品が放映され、多くの人々に衝撃を与えました。この事により日本各所での巡回展覧会が企画開催されました。こうして彼の絵画とその生き様は世間に紹介され、感動を呼び、心をとらえ高い評価を受け美術館が出来るところまで進みました。

孤高の中で生涯自分の内面を見続け、そして絵に対して誠実に生きた人生でした。

生前は生活の為に絵画を売る事は無く、手元に残していました。人に見せるための絵、買ってもらうための絵で無く、自身の絵に対する思いを誰よりも深く大切に考え、自分が納得のする絵を描き続けてきたのでしょう。美術館の外には「一村の杜」があり、彼が好んで描いた不喰芋、アダンの木、ハイビスカスなど亜熱帯の植物が植樹されていました。「田中一村」の残した絵画が散逸せず、そのまま奄美の歴史財産として、ここ田中一村記念美術館に保存され展示されている事を嬉しく思いました。最後に一村の残した言葉を紹介します。

「私がこの南の島に来ているのは、歓喜の声に送られて来ているのでなければ、人生修行に絵の勉強に来ているのでもありません。私の絵かきとしての生涯の最後を飾る絵を画く為に来ている事がはっきりしました。」



▲ 「一村の杜」にあるアダンの木の前で

金作原生林ネイチャーツアー

梅谷康子・神田尚子・山本奈美・吉野由美子



世界自然遺産地域となっている金作原では、その利用ルールが厳しく定められています。

金作原における利用ルールについてのチラシが鹿児島県で作られており「認定ガイド」同行による利用秩序の維持や、利用者数の制限による自然への負荷を低減する運用がされています。

ロードキル防止看板には、「気をつけよう、暗い夜道のクロウサギ」というようなものも作られています。

金作原といえば、このようなヒカゲヘゴがとても有名です。2021年に世界自然遺産に登録された奄美大島は“東洋のガラパゴス”と呼ばれ、他の地域ではなかなか見られないような固有種の生物がたくさん生息しています。その中でも金作原生林は奄美大島の亜熱帯植物が多く残されている原生林です。



また、金作原ではクワズイモの群生が見られます。本州でも見られますが、このように巨大になることはありません。

トトロになった
気分で…



原生林の80%は「しいの木」です。ブナ科の植物で、スダジイとかイタジイなどと呼ばれています。こんな大きなどんぐりが落ちていました。高温多湿な気候で奄美大島ではすべてが大きいです。

▼ 木に着生したシマオオタニワタリ



▼ ウラジログシの板根



希少種保護へ夜間巡視 奄美大島 盗掘・盗採防止で監視強化



環境維持のための活動としては、盗掘防止のパトロールも行われていて、効果が出ています。

一方、数が減っているウニなどは、放流して増やそうとしていますし、リュウキュウアユは沖縄島と奄美大島に生息していましたが、沖縄島の在来個体群は1970年代末に絶滅しました。これも繁殖の実験をしています。

また、アメリカハナグルマやセイタカアワダチソウといった外来植物の駆除活動なども行っています。

マングースは、マングースバスターズなどの活躍もあって、根絶宣言ができるのも間近と聞きました。木にピンクのテープが張ってあるのは、マングース捕獲用のワナのしるしです。

おかげで「あまみのクロウサギ」などは個体数を増やしています。

現在問題になっているのは、訪問者の増加による「ロードキル」で交通事故にあう野生生物が少なくありません。野良犬や野良猫の被害もあります。私たちの行動が、自然に大きな影響を与えていることを忘れてはいけません。

奄美大島が世界自然遺産に登録された理由は「生物多様性」と言われています。

残念ながら動物を見ることはできませんでしたが、多様な植物を見ることができました。

めったに原生林に触れることがありませんので、原生林の中を歩けたことは、日々、都会の中で忙しく時を過ごす者にとっては、癒しの時間となりました。

大島紬と奄美大島酒造

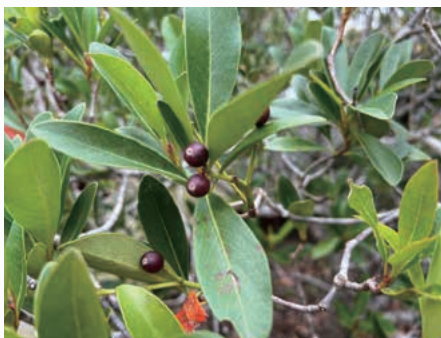


藤田美代子・西村温子・宮田千津代・村田昌子

2日目の午後、奄美ばしゃ山村にて、昼食に大きなどんぶりを頂いた後、大島紬村へと向かいます。「大島紬」はフランスの「ゴブラン織り」イラン・トルコの「ペルシャ絨毯」とともに、世界三大織物の一つに数えられています。入口の美ら門(キョラモン)を通り、大島紬の製造工程を見学しました。



昼食と美ら門(キョラモン)



車輪梅

亜熱帯植物のある庭園を歩きながら染色工房に入ります。車輪梅の木を細かくチップ状にしたものを大きな釜で約12時間煮出した染料で白い絹を染めていきます。20回から80回染めていくことにより、車輪梅にふくまれているタンニンで茶褐色に染め上がります。

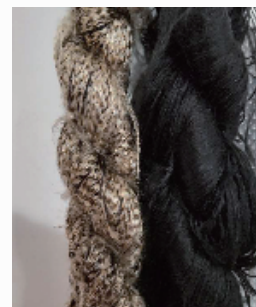
さらに泥田の中で、車輪梅染めをした絹糸を揉み込んで染めていきます。鉄分を含む粒子の細かい赤土質は絹糸をしなやかにそして艶のある大島紬特有の黒色に仕上げます。



織



泥染



染め上げられた絹糸は、様々な工程を経て熟練された技術で織り上げられ、反物になります。

展示販売サロンは、ギャラリーショップとなっており、大島紬の着物はもちろん、和風小物、バッグや財布などの製品がいろいろと展示、販売されていました。写真の竜郷柄は大島紬を代表する伝統柄です。



大島紬 龍郷柄



奄美大島酒造

次に奄美大島酒造へと向かい45分間、奄美黒糖焼酎製造工程を見学しました。黒糖焼酎の主な原料は、さとうきびから造られる「黒糖」です。2007年製造分からは全ての黒糖を地元の奄美大島産に限定。また、地下120メートルから汲み上げた天然水の地下水は黒糖の味を最大限に引き出し、薫り高い黒糖焼酎に生まれ変わるのだそうです。

係員の方より説明を受けながら、仕込み、蒸留、ラベル貼りなど、館内をめぐるります。



仕込み



蒸留



ラベル貼り



奄美大島酒造 製品

試飲コーナーでは、やわらかな口当たりや、飲み口がさわやかなもの、果実のような甘い香りや、深いコクがあるものなど、皆さんそれぞれに味わわれ、お土産を購入されました。

大島紬も黒糖焼酎も奄美大島を代表する貴重な伝統の品として、これからも守り続けていって欲しい、と切に思いました。

奄美大島商工会議所女性会との交流会

川上治美・岡野路子・葛城万寿子・倉斗秀子・高橋扶二子

今回、研修旅行2日目の夜、奄美大島商工会議所女性会のメンバーの方々と交流会を開催いたしました。

参加者は、奄美大島商工会議所女性会

会 長 里 エイ子様

副会長 里原 あけみ様

〃 指宿 亜紀子様

〃 大久保 由美子様

理 事 伊藤 静子様 の5名の皆様が、大島紬をお召しになって参加されました。



交流会は、岡野副会長の司会で始まり、田中会長は挨拶の中で今回の調整・ご参加にお礼を述べられました。続いて、奄美大島商工会議所女性会 里会長のご挨拶は、「ヨネヤオガミンショーラン（こんばんは、お目にかかれて嬉しいです。）」と、奄美言葉で始まり、2019年9月の鹿児島県であった女性会全国大会の折に、同じテーブルであったというご縁で今回の交流会となったと述べられました。

この交流会に先立ち、前夜の夕食会には奄美大島商工会議所 有村会頭と川口専務理事にも表敬訪問頂き、なつかしい顔ぶれにあらためてご縁を感じました。

交流会は、奄美大島商工会議所女性会の方々への質疑応答という形で、最初に京都商工会議所女性会 葛城会長からの「コロナ禍の中、どのように継続し復活してきたか?」との質問には、奄美大島では観光産業が多く、支援金頼みに続けてきたが、一度立ち止まって自分を見つめ直す時間、休める時間となったと述べられました。

商い（ビジネス）とは、飽きない（やめない）こと、興味を持って商売を継続していくことが大事とのご意見でした。

島の産業、大島紬についての質問については、「全盛期は昭和50年までで、58年あたりから年々減少し、島の女性の機織りという職業も月20万円以上あったものが、今はわずかになり、また織り手も若い世代がおらず減少している」との事でした。販売不振に拍車がかかっている原因としては、流通の過程で価格が5～6倍になる事もあげられていました。



懇親会の食事中に、奄美大島商工会議所女性会の方々とおけぼの会参加者の自己紹介を行い、交流を深めました。

最後には、奄美伝統の踊りについてアラシャゲ会の方の説明を聞いた後、道行き・サンダマケマケ・赤木名観音・6調の4曲を奄美の三線、太鼓を交えて、全員で輪になって踊りました。

和気あいあいの中、全員で記念写真を撮りお開きとなりました。



南国の温かい人情が何より心にしみました。
奄美の皆様、ありがとうございました。

第34回 KYOのあけぼのフェスティバル2022

知ること未来が変わるきっかけに ～SDGs～

日時：2022年11月22日(火) 10:30～15:00

場所：京都府総合見本市会館（京都パルスプラザ）

Program

●式典

主催者挨拶 京都府知事 西脇 隆俊 氏

実行委員長挨拶 田中 田鶴子 氏



京都府知事 西脇 隆俊 氏



実行委員長 田中 田鶴子 氏

●京都府あけぼの賞表彰式

男女共同参画による豊かな地域社会の創造に向けて、女性の一層の能力発揮を図るため、各分野での功績の著しい女性個人5名と1グループが顕彰されました。



●講演

「チャンスの贈与 — タンザニア商人たちの将来への備え方」

講師：立命館大学大学院先端総合学術研究科教授 小川 さやか 氏

加速化する気候変動やコロナ禍など既存の常識が当てはまらない現代において、それを生きてゆく力に換えてゆくタンザニア商人たちの経済活動をとらえて、持続的な未来づくりのお話です。



●ワークショップ

海外研修KYOのあけぼの会は、京都商工会議所女性会とともに、ワークショップを開催しました。

はじめに、絵本作家 ふしはら のじこ 氏による講演、

演題は、絵本を通して考える「子どもたちのために大人が今やるべきこと」

自主研修発表は、

奄美大島を訪ねて ～環境との共存・奄美の女性の活躍～

沢山のご参加の方々に情報発信をすることが出来ました。

(別ページにて内容掲載しています。)



●バザール

京都府産の野菜や手作りスイーツ、雑貨などが販売され、賑わいました。

次回のKYOのあけぼのフェスティバル2023にもご期待の上ぜひご来場ください。

入 会 案 内

海外研修KYOのあけぼの会

私たちは、地域社会のリーダーとして、女性の自立と社会参画を促進する事業を実施しています。毎年の研修旅行では、さまざまな課題に先進的取り組みがなされている国内外の地を訪問し、実情の視察とともに率直な意見交換を交えた研修を行い、その後の活動の糧として男女共同参画による地域社会づくりを目指しています。

主な研修地

2007年	スイス・チューリッヒ 教育・福祉等で活躍する女性と交流	2015年	広島・愛媛 戦後70年の原爆ドーム・近代化産業遺産別子銅山
2008年	島根県 大田市 世界遺産・石見銀山の文化的景観を訪ねる	2016年	ポルトガル 輝く女性を訪ねて
2009年	北海道 知床 世界遺産・知床の温暖化対策と流水トラストに学ぶ	2017年	岡山県 真庭市 森林と共に暮らす真庭市でバイオマスツアー
2010年	イギリス湖水地方 ナショナルトラストに学ぶ	2018年	パリ 活躍する女性を目指す京都とパリ
2011年	山陰海岸 大地の公園・山陰海岸ジオパークの地域おこし	2019年	東京 働く女性の学び～過去・未来～武相荘にて
2012年	海洋島・小笠原諸島 自然保護活動	2020年	京都府下丹後半島・美山・和束・乙訓 未来へ続く地域に根付いた持続可能な営み
2013年	デンマーク・ロラン島 風力発電・自然再生エネルギー	2021年	東北地方 白神山地 奥入瀬渓流 三内丸山遺跡 環境と調和
2014年	長崎県 五島列島 世界遺産登録を目指す五島列島の地域活性化と女性の活動	2022年	奄美大島 環境との共存・奄美の女性の活躍



2007年 スイス・チューリッヒで
教育・福祉等で活躍する女性と交流



2012年 小笠原諸島の
自然保護活動



2013年 デンマーク・ロラン島の
風力発電・自然再生エネルギー



2014年 世界遺産登録を目指す
五島列島の地域活性化と女性の活動



2015年 戦後70年
原爆語り部



2016年 ポルトガル
輝く女性を訪ねて



2017年 森林と共に暮らす 岡山県
真庭市の挑戦・バイオマス女子の活躍



2018年 活躍する女性を
目指す京都とパリ



2020年 京都府下丹後半島
美山・和束・乙訓



2021年 東北 ～環境との調和～
白神山地・三内丸山遺跡

海外研修KYOのあけぼの会ご入会をお待ちしています

★活動にあたって

- 1.人とのつながりを大切に
- 2.実際に行動する
- 3.まわりの多くの人に伝える

年会費 3,000 円（4月～翌3月）

ご入会のお問い合わせ・申込は

<http://kyo-akebono.com/membership/>

または TEL 075-761-3401 事務局 岡野

てるびっとバックナンバーはこちらからご覧いただけます。

<http://kyo-akebono.com/official-magazine/>



2023年度 海外研修KYOのあけぼの会研修旅行ご案内

◆募集人員：20名様 ◆旅行代金：2泊3日 ￥154,000（概算）

◆旅行日程：2023年5月26日～2023年5月28日 ◆旅程は変更になる可能性があります

日本の生命線 海運と造船 ～造船技術の広がりと未来～

	月日(曜)	予 定
1	5月26日 (金)	のぞみ1号 京都 8:09 福山 9:26 9:40 10:10 尾道造船株式会社(造船所見学及び研修) 12:00 ベラビスタ スパ&マリーナ尾道(ランチ) 12:30 熊野筆「筆の里工房」 13:45 15:15 グランドプリンスホテル広島 16:00 16:30 尾道造船株式会社 (Onomichi Dockyard Co., Ltd.) 貨物船のケミカルタンカーやバラ積み船の建造を主力とし、フェリーの建造も手掛けている、日本でも数少ない建造と修繕の両業務を行い、様々な船種に対応できる造船所です。
2	5月27日 (土)	ホテル 8:30 大和ミュージアム/海上自衛隊呉史料館(見学) 9:00 10:30 ONOMICHI U2(ランチ) 12:00 13:00 村上水軍ミュージアム 13:50 今治タオル美術館(タオル製造工程の見学) 14:30 15:30 大和屋本店 16:30 17:30 大和ミュージアム／海上自衛隊呉史料館 戦艦「大和」を建造した軍港、日本一の海軍工廠のまちとして栄え、戦後は、世界最大のタンカーを数多く建造する明治以降の「呉の歴史」と造船・製鋼を始めとした各種の「科学技術」を紹介する博物館。
3	5月28日 (日)	ホテル 9:00 松山城 9:15 10:30 坂の上の雲ミュージアム 10:45 11:45 12:00 12:45 萬翠荘(重要文化財) 郷土料理 五志喜(ランチ) 13:00 14:00 松山空港 14:20 15:30 ANA1644 伊丹空港 16:20

編集後記

暖かく穏やかな春の風が心地よい季節となりました。てるびつと最新号をご覧くださいありがとうございます。海外での研修は難しい昨今とはいえ、今まで積み重ねてきた国内外数々の研修経験を基に、楽しい！ 勉強になる！ 工夫をこらした！ 体験と交流が満載です。如何でしたでしょうか。研修取材にご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。今年、あなたもぜひ一緒にまいりましょう。(奥谷 かをる)

2023.3 発行 / 海外研修KYOのあけぼの会

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町85番地の4(岡野組内) TEL 075-761-3401 FAX 075-752-3034 事務局 岡野



感動のそばに、いつも。



THE ACADEMY OF HOSPITALITY

学校法人 大和学園 <https://www.taiwa.ac.jp>



株式会社 岡野組



石村硝子株式会社

創業明治26年 電気工事一筋に



山科電気工事株式会社



株式会社 近畿建物

BUILD×DESIGN×MAKING

男女共同参画に積極的にご参加の企業様に協賛をいただいております。